

福岡支部設立について

福岡支部長 松川 白堂

1. 「福岡支部」創立式典を挙

人間禅「福岡支部」が平成26年9月15日、高らかに創立を宣し記念式典を挙

行しました。
「九州の中心である福岡市に人間禅支部を作ることは耕雲庵老大師以来、歴代師家の悲願でありました。それが、いまここに天の声、地の利、人の輪を得て成就しました。先師、先輩方のご努力を思う時、万感迫り来るものがあります」——。葆光庵丸川春潭総裁老師は記念式典の垂示で、こう述べられました。

福岡の堅固な岩盤に最初の鑿を打ちこんで25年。四半世紀に渡る事業が一応の区切りを迎え、新しいステージにステップアップしましたが、これは切端に立って骨を折った福岡・九州の各道場のみならず、全国全道友の永年絶えることのなかった勇猛心が結晶したものと言えます。

総裁老師は垂示を次のように結ばれました。

「いま、支部としてスタートしたばかりです。数年は福岡の地にしっかりと浸透し、人間禅の基盤を盤石にすべく努力していただきたい。その上で九州の全支部・禅会と協働して、歴史ある九州を未来に向けて発展させることに、この福岡支部が主体的に取り組んでいただきたいと思います。九州の活性と前進が人間禅の前進に繋がります。今後の発展を祈念します」。

福岡支部会員一同、「禅」上陸の地に立ち上がった福岡支部の責務の重

大きさに恐れおののきつつ、益々のご支援を糧に邁進してまいる覚悟です。禅誌に「設立までのあゆみ」と平成26年9月7日～15日まで福岡市中央区の鳥飼八幡宮で挙行された記念撰心会、および記念式典の一部をご紹介します、25年間の御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

2. 支部創立まで25年間のあゆみ

○6人の侍でスタート

福岡での拠点作りの第1歩は平成元年にスタートした「福岡静座会」でした。

鎮西道場の故雲龍庵松崎廓山老師のご指示で、白井瑞雪・仰木照応・山下浄淵・後藤万岳・岡崎梁山・岡崎蘭芳の6居士が担当者となり、福岡市南区桧原の公民館と中央区赤坂の中央公民館を借りて例会を行いました。例会には鎮西道場から交代で会員が出席し、座禅指導をしながら法話を担当しました。

その後、担当者の転勤や帰寂などが相次ぎ中断を余儀なくされました。

○「太宰府静座会」時代

平成12年になって当時、太宰府にお住まいだった熊本支部所属の渡邊清滝・真珠夫妻が太宰府市三条で静座会を立ち上げられました。一行庵中村義堂老師の時でした。

○「筑紫野座禅教室」時代

平成18年には太宰府静座会を引き継いで中本恵泉禅子、そして松嶋瑞巖夫妻が「筑紫野座禅教室」を始めました。会場は筑紫野市の生涯学習センターに移しました。約2年が経過した時、葆光庵丸川春潭総裁老師から熊本支部は鹿児島方面に進出を図り、福岡は鎮西支部が引き継ぐという方針が示されました。福岡禅会は以後、筑紫野座禅教室を入れて7カ所の会場を転々といたします。

○クローバープラザに巡り会う

平成20年7月、福岡市に隣接する春日市の「クローバープラザ」に巡り

会い、ここに拠点を移しました。名称を「福岡禅会」と改め、葆光庵丸川春潭総裁老師の講演会を皮切りに座禅例会を始めました。

クローバープラザは現在も鳥飼八幡宮に次ぐ第2例会場として毎週土曜日の座禅会を続けています。参禅会も日帰りではありますが計9回行いました。

○筑紫野の永野邸時代

修行には宿泊して参禅会が出来る場所が何としても必要です。クローバープラザで例会をしながら宿泊の出来る会場を探していましたが、平成21年に中本恵泉禪子から筑紫野市の永野勝久邸を使わせてもらえるとの報告がありました。閑静な場所で1600坪の敷地に建つ別荘のように瀟洒な会場でした。永野邸では葆光庵丸川春潭総裁老師のご指導で5回参禅会を行いました。

○八十八か所の山王寺時代

平成23年には福岡市中心部により近く、八十八カ所で有名な糟屋郡篠栗の「山王寺」を半年間、使わせていただき、1泊参禅会を3回行いました。山王寺参禅会からは妙頂庵上岡白雲老師が担当師家に就任なさいました。

○狙いはあくまで福岡市内

この間、福岡市の中央公民館（平成元年に福岡静座会が使用した会場）で平成22年に10か月間、さらに福岡市東区吉塚の「東光院」で平成23年から1年9か月間、例会を行いました。東光院は無住の古刹で福岡市が管理していますが冬は寒風が吹きこみ、夏は蚊がまとわりつく荒れ寺で新規の来堂者が次第に遠のいてしまいました。

○鳥飼八幡宮に辿り着く

平成25年5月、やっとここ鳥飼八幡宮に辿り着きました。ヤフオクドームやヒルトンホテルを背景に福岡市の中心にあって、地下鉄から至近、バス停が真ん前という最高の立地です。神社の参拝者が座禅会の立て看板を見てふらりと訪れることもあります。神社のご理解にも恵まれて、総裁老師のご垂示にありました通り、25年目にしてやっと「地の利を得た」と感

謝しております。

以上、ご支援をいただきました道友各位と最期まで福岡をご心配下さった北九州市の大正寺ご住職・故荒谷義晃和尚様に心からなるお礼を申し上げて、「福岡支部までのあゆみ」を報告させていただきました。(久木田寶州)

3. 記念撰心会

支部設立記念式に先立って平成26年9月7日(日)～14日(日)まで総裁老師のご巡錫をいただいて撰心会が厳修されました。

福岡支部員にとっては初めて経験するフルコース撰心会で、いきなり老師方が6人列席されてピンと張りつめた結制茶礼でスタートを切って以来、円了まで緊張と興奮が途切れることのない8日間でした。また、撰心会後半になると全国から道友が駆け付けて、参加者総数は53人にのぼりました。狭い道場に多い時は40人近くが端座し、競い合って参禅する様子に大きな刺激を受けました。

そんな撰心会のトピックスを二つ紹介して例会報告とします。

○トピック その一

撰心会会場の「振武館」は日頃から柔道、空手、合気道の会と曜日でシェアしながら使っています。撰心会の間、他の会が道場を使う時間帯は別の会場で講演会をしたり、屋外作務を組み込んで事なきを得ましたが1日だけ、薬石の時間と空手がダブルブッキングしました。

致し方なく、2階の居士寮3部屋に分散して食事をしました。典座は階段を上った踊り場に店開きをして、3方向に向かって給仕をします。食を享く側も狭い部屋に膝つきあわせ、お替わりは手渡しリレーをしてもらう始末です。

何事もなかったように「食畢の偈」を唱え終えた他支部の道友に思わず合掌した、ヒア汗の薬石でした。

〇トピック その二

恒例の輔教師・布教師会議を日程の都合で円了日の午前中作務の時間に行うことになりました。福岡支部のメンバーは輔教師前であっても、静座会員であっても全員出席することになりました。円了前の仕上げ作務は他支部からの面々にお任せです。指揮は総裁老師が名乗り出られました。

やっと生まれたばかりの弟を、お兄ちゃん達があやしながら抱っこしてくれているような心地よさの中で「人間味の豊かな人々の家庭である」ことを実感した瞬間でした。

4. 記念式典と祝宴

福岡支部創立記念式典は平成26年9月15日(月)、鳥飼八幡宮参集殿で行われました。老師方14名様のご臨席いただき、さらに全国から馳せ参じて下さった道友と地元福岡の来賓各位を合わせて、総勢90余名の方々が見守っていただく中で新しいスタートを切りました。

式次第では、先ず担当の妙頂庵上岡白雲老師が御礼のご挨拶、続いて支部設立まで牽引車・蒼海庵久木田寶州老居士が「25年のあゆみ」を報告しました。

総裁老師は「人間禅の前進に繋がるよう、今後の発展を祈念する」と垂示されました。引き続いて、福岡支部の生みの親である鎮西支部の向野実道支部長から祝辞をいただき、松川白堂福岡支部長が謝辞を申し上げてお開きとなりました。

引き続いてささやかな祝宴を催しました。各支部・禅会ごとにお祝いの出し物を披露していただきましたが、久しぶりの支部設立とあって底抜けに賑々しい宴席になりました。会場にしつらえてある大相撲九重部屋の土俵で、体躯豊かな老師の土俵入りが披露され、老禅子が「大関」を熱唱するとご祝儀の“おひねり”でも飛び出しかねないような大喝采でした。打ち上げは博多の作法に則り「祝い唄」を歌って「博多手一本」で厳かに締めていただきました。



福岡支部創立記念式典

万緑眩しい境内に「人間禅、バンザイ！」「福岡支部 バンザイ！」がこだまして、いまでも賑わいが思い出される感慨深い祝宴でした。

—人間禅福岡支部創立記念式総裁御垂示—

総裁 葆光庵丸川春潭老師

福岡支部創立記念式に際して総裁としてひとこと申し述べます。

昨日、一週間の創立記念撰心会を円了しました。福岡の地で初めて撰心会がフルコースで厳修されました。その撰心会を通じて感じたことを述べます。

事になるには「天の声、地の利、人の輪」が揃わなければならないと言われておりますが、先程から担当師家のお話にありましたように、ここ鳥飼八幡宮様とのご縁ができ、協力をいただいて福岡支部が出来あがりまし

た。まさに「地の利」を得た訳でございます。

6年前、福岡禅会が発足して参禅会が始められました。以来6年間に10名の方々が入会し見性しております。とても素晴らしいことです。今回の記念すべき摂心会には全国から道友が参集し、福岡支部の会員と共に参禅弁道し、同じ釜の飯を食い、一緒に作務に汗を流しました。「人間禅」あげて協賛し応援をしたのです。福岡支部を中心とする「人の輪」が完成したという思いを強く致しました。

最後に天の声です。6年前に福岡禅会がスタートしましたが、その前から熊本支部と中本恵泉禅子を中心にした筑紫野静座会が地域の人たちと一緒に座禅会を続けておりました。それを基盤に鎮西支部の総力を結集して福岡支部を立ち上げようという決断がなされました。

それ以降、鎮西支部と豊前支部などのサポートを得て研鑽を続け、今日、「天の時」として歴史的な因縁のある福岡に「人間禅」の法燈が燈されました。「天の声、地の利、人の輪」が全て揃って福岡支部が創立されたのです。

その昔、鎮西支部担当の雲龍庵老師から直接お話を伺ったことがあります。九州では「人間禅」の前身である「両忘協会」が小倉に発足してから90年が経ちます。しかし九州の玄関はやはり福岡であり、福岡に「人間禅支部」を作りたいというのが鎮西の願いでありました。耕雲庵老大師、第二世の妙峰庵総裁以降、歴代師家のまさに悲願であったのです。

それが、いまここに「天の声、地の利、人の輪」を得て成就しました。先師、先輩方のご努力を思う時、万感迫り来て法喜禅悦の極みでございます。

本当におめでとうでございます。そしてこれまでのご精進に対して心から敬意を表し、ご苦労さんと申し上げます。

いま支部としてスタートしたばかりです。数年は福岡の地にしっかりと浸透し「人間禅」の基盤を盤石にすべく努力していただきたいと思います。その上で九州の全支部・禅会と協働して、歴史の深い九州を未来に向けて

発展させることに、福岡支部が主体的に取り組んでいただきたいと思います。

この九州の活性と前進が「人間禅」全体の前進に繋がります。今後の発展を祈念して垂示と致します。

—福岡支部長謝辞—

いま、福岡の地に大法の炬火が掲げられました。

人間禅総裁・葆光庵丸川春潭老師のご指導をいただき、全国の老師方、道友各位、さらにここ福岡で座禅道場を支えて下さっております来賓各位に見守っていただく中で、福岡支部の誕生を高らかに宣言できますことは、人間禅修行者としてこれ以上ない喜びでございます。福岡支部会員一同、心から深く、深く御礼を申し上げます。

振り返りますと鎮西道場、熊本道場の面々が平成元年から、福岡市進出をはかって、周辺各地を転々としながら座禅会と参禅会を繰り返して来られました。平成24年には一時、福岡市東区の東光院に落ち着きましたが、隙間風の吹き抜ける無住の寂れ寺を訪ねて来られる人もまばらで、当時の禅会長でございました蒼海庵老居士と二人だけで、作務と座禅を繰り返した日も数知れません。

先輩会員諸氏がまさに雲水さながらに、筑紫路をさまよいながら一人、一人、例会参加者を募り、今日の礎を築いて下さいましたことに、改めて感謝と敬意を捧げる次第でございます。

また「福岡は大事ないか」と物心両面で不断のお心配りをいただいた故荒谷義晃和尚、匿名でそっと手を差し伸べていただいた篤志家のご芳情に改めて深く感謝申し上げます次第でございます。

この間、妙頂庵上岡白雲老師の厳しいご鉗錘をいただきました。妙頂庵老師は繰り返し「前を向け」、「先を見ろ」、「己を信じてやれ、必ず成功する」と説かれました。師のご指導に従いまして、本日9月15日以前はさて置いて、「荒唐無稽」のお叱りを覚悟の上で15日以後の夢を語らせてい

たきます。

今年の初め、韓国福岡青年会議所が新年を座禅でスタートしたいと、福岡禅会参加を申込んで来られました。今年を一大飛躍の年と位置付けて、自己を見つめるところから始めたいというお話でございました。

終戦から既に70年、青年会議メンバーは在日三世が核となって、日本文化の中で活躍をされていますが、ご自身のルーツをととても大切にしていっっしゃいます。

たまたま、この新年座禅会の計画を聞かれた大濠ライオンズクラブから、相互理解と友好を深めたいので参加させてほしいと申込みが舞い込みまして、福岡禅会始まって以来の40人を超える大座禅例会になりました。韓国福岡青年会議所とのご縁はその後も続いており、メンバーの社長が従業員を引率されて、座禅例会に参加されることもあります。

昨今の日本を取り巻くアジア情勢は緊迫の状態にあります、「人間禅福岡支部」という極めて小さな僧伽の中では禅を真ん中に、畔も仕切りもない「一衣帯水」が広がっております。利害と覇権が渦巻く海と化した日本海を「一衣帯水の海」として再生できるのは、紛れもなくアジアの民が同じ根ッ子として持っている禅の心であろうと存じます。世界平和を叫ぶ程の力はありませんが、「手をつなぎましょう」と呼び掛けることは出来ます。

「一日一炷香は世界を救う」という信念の下、福岡に点った大法の燈を世界に向けて掲げ続けることを誓って、謝辞とさせていただきます。

平成26年9月15日

福岡支部長 松川白堂

■著者プロフィール

松川白堂（本名／光一郎）

昭和20年、岡山県生まれ。平成23年、人間禅丸川春潭老師に入門。現在、人間禅輔教師。（福岡支部）
